



今週のポイント

ゴールドロックス(適温相場)シナリオを背景に上昇していた米国株も一旦調整

ゴールドロックスシナリオの修正を背景に米国株の調整が続いています。10月までの株高は、米国経済が好調な状況で、断続的な利下げが行われることでAI(人工知能)関連を中心としたハイテク株が押し上げられた結果です。

しかし、10月28～29日のFOMC(米連邦公開市場委員会)後、にわかに12月の利下げ見通しが後退しました。直近においても、10月分のFOMC議事要旨が公表され、多くの当局者が年内は政策金利の据え置きが適切となる可能性が高いとの意見を示していたことから、マーケットの政策金利観は上方シフトしました(Fed Watch※¹によれば、12月利下げ確率は一時30%まで低下)。

注目された米半導体大手エヌビディアの8～10月期の決算が発表されました。売上高が前年同期比62%増の570億ドル、純利益は65%増の319億ドルと過去最高益を更新、来期の見通しも市場予想を上回りました。文句なしの好決算に、発表当初は株高で反応しましたが、すぐさま反落、現状のAI不信は払拭されませんでした。

9月の米雇用統計は、米国経済が巡航速度で推移していることを示唆する結果に

連邦政府の閉鎖により公表が延び延びになっていた9月の米雇用統計が発表されました。民間の非農業部門雇用者数は前月比+11.9万人(8月:同-0.4万人)と前月から伸びが拡大し、市場予想(同+5.3万人)を上回りました。失業率は4.4%(8月:4.3%)と前月から上昇し、市場予想(4.3%)を上回りました。平均時給は前月比+0.2%(8月:同+0.4%)、前年比+3.8%(8月:同+3.8%)となりました(市場予想は前月比+0.3%、前年比+3.7%)。

今回の雇用統計の結果は数値自体、決して強くありませんが、米国経済が巡航速度で推移していることを示唆する内容です。ただし、今回の結果は9月のものであり、利下げの効果や政府閉鎖の影響が出る前のものであり、FRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策には中立的な情報であると言えます。

政策金利観の修正を背景とした調整も、来年1月以降の米利下げ観測の高まりとともに株高基調に戻ると思われる

FRBの今後のスタンスを見極める上で重要なポイントが10、11月の米雇用統計になります。しかし、労働省労働統計局は19日、10月の雇用統計は公表できないことを明らかにし、11月分は当初予定していた12月5日から16日に延期される見通しとなりました。つまり、12月9～10日開催のFOMCには間に合いません。前述した議事要旨では、「多くの参加者は自身の経済見通しに基づけば、年内は目標レンジを据え置くことが適切になる公算が大きいとの立場を示唆した」と記しています。一方、ハト派※²である「幾人かの参加者」は、次回会合までに「経済が予想通りに推移すれば」、12月の利下げは「十分に適切となり得る」との意見を表明しています。ただし、次回FOMCまでに雇用統計の発表が無い場合「経済が予想通りに推移」の判断ができません。したがって、12月のFOMCでは利下げが見送られると予想されます。

足元の調整局面は、マーケットの政策金利観の修正が背景です。12月のFOMCでの利下げ見送りを織り込めば、修正局面も終了します。そして、1月以降の断続的な利下げを想定し、ゴールドロックスシナリオへ回帰すれば、株高基調が戻ると思われます。国内株式市場においても、足元の調整局面を過度に悲観視せず、冷静にリスクテイクすることが重要です。日経平均株価の年内の高値更新は十分に可能です。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

～ワンポイント用語集～

※1 Fed Watch…FRBがFOMCで決める政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標が変更される可能性を確率で表した数値。FF金利先物の動向に基づき算出される。

※2 ハト派…各国の中央銀行の金融政策を決定する際、景気刺激に積極的で金融緩和的な政策を支持する傾向がある人々のこと。反対に、物価安定を重視し金融引締め的な政策を支持する傾向がある人々をタカ派と呼ぶ。